特定非営利活動法人

キンダーフィルムフェスト・きょうと

　2０１６年度　通常総会

議　案　書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　日時：2016年12月11日（日）13：00～14：30

　　　　　　　　　　　　　　　　　　会場：中京青少年活動センター　和室

《議事次第》

　　　　１．開会あいさつ

　　　　　 議長選出

 議事録署名人選出

　　　　２．審議事項

　　　　　　A． ２０１６年度の事業報告

　　　　　　B.　２０１６年度の決算報告

　　　　　　C.　２０１７年度の事業計画（案）の提案

　　　　　　D.　２０１７年度の予算（案）の提案

　　　　　　E.　新役員（監事）の選出

　　　　３.　議長解任

　　　　４.　その他の事項

　　　　５.　閉会のあいさつ.

**A. ２０１６年度事業報告**

○アニメーションワークショップについて

〈ａ〉春休みアニメ・ワークショップ京都文化博物館3月26・27日

コマ撮りアニメーション制作グループに加え、オモシロ映像制作では、

スターウォーズのライトセイバーの加工に挑戦しました。

〈ｂ〉夏休みアニメ・ワークショップグランフロント大阪(大阪・梅田)

8月13・14日

ナレッジキャピタル・ワークショップフェアの一つとして開催。新種動　物園を作ろう！！

子どもたちは色とりどりのモールを使って、見たことのない生き物を制　作、それをコマ撮りアニメーション撮影、パソコン上の新種動物園に収容していくと沢山の不思議な動物たちが動き回っています。大手前大学メディア・芸術学部西岡弘哲講師と学生たちが指導しました。

○子どもスタッフの活動について

　　《2016年9月19日に開かれた子どもスタッフ会議から》

**★反省点**

会議の出席率が悪かった。

遅刻するものも多く、部活などの予定の管理をちゃんとして出席する。

リーダーに頼り切っていたところがあったので、もっとスタッフ一人一人がやることを理解しておく方が良かったと思った。

早め早めの準備は、早すぎる位の気持ちで行うべきだ。

オープニングビデオは、早くから撮影を始めたが、全員揃うシーンの撮影が出来なかった。

監督が殆ど参加出来ていなかったので編集できなかった。

撮影した映像は、来年のオープニング映像に使う。

ボイスオーバーをもっと練習しなければならなかった。

ボイスオーバーは楽しかった

ポスターを早く作る。中京青少年活動センターから文博に持って来ても仕上げが出来なかった。

もっと宣伝が必要だと思った。

広報活動が出来ればよかった。ビラをもっと早く配りたかった。

ビラをもう少し早く作っておくべきだった。

広報活動、連絡の方法としてキンダー子どもスタッフのtwitterの開設などの活用を考える。

予定をちゃんと把握してなかったから、スムーズに行動できなかった。

明確に役割がなかったので、バラバラしていたのではないだろうか？

1ヵ月前、テスト前に係を決め、シフト制などを考える。

初めての本番で緊張したけれど楽しかった。

スタッフ同士で、くっつくことが多かった。

シアター入口の出迎えの子どもスタッフの人数を制限する。

出入りの邪魔にならないように、パンフレット配布、カウント係2人位にする。

ポスター、作品紹介、スケジュールを見ることが出来る様に場所を開けておく。

場内整理、後ろの席をうめる、親子が来ると4人とか5人と多いので席をつめてもらう。

時間の把握が出来ていなくて、昼の時にバタバタした。

タイムスケジュールの上映時間、終了時間などの時間表記が正確でなかった。

お弁当を買いに行くタイミングも難しかった。

上映中残るスタッフのシフトを作る。

ゲストインタビュー担当は残って見る。

インタビューに戸惑ったのでちゃんとやる。

映画の内容、監督についてもっと知っておくべきだった。

海外のゲストへのインタビューがあまりにも雑であったので、もっときちんとするべきだった。

今回は、先に会場に質問がないかと尋ねたが、先に監督に、テーマ、訴えたい事、見てもらいたいところ等を話してもらう。

インタビューするスタッフは事前に映画を見る。

DVDで作品を見る機会はあったが英語字幕だったので、ボイスオーバーのあるホールで作品を見る。

マイク担当、アナウンス担当

手を上げていても椅子の背もたれで見えないので会場の質問者の場所を指示するスタッフが必要。

真ん中の質問者へマイクを回してもらう。

質問が多くて終了時間が来た時、その後の止める言葉遣いをしっかり決めておき丁寧にするべきだった。

どう切ったら良いのだろうかとか、毎回反省点であるが全く改善できていなかった。

上映後、子ども審査員が出ていったのでびっくりした。

一番、子ども審査員が聞くのが大事なので、子ども審査員には残ってもらい、上映後のインタビューに参加してもらうべきだった。

そのために2回上映しているのだから、審査の議論の中で質問を考えて、子ども審査員は残ってインタビュー、質問をして欲しかった。

植田さんに残って欲しいと頼んで、残ってもらった。

最終日のインタビューで監督と子ども審査員のコミュニケーションが取れたのは良かった。

国際映画祭だから日本の映画にも英語字幕が必要、ゲストも見ていたので付けるべきだった。

グッズを作ったら良かったかも。

Tシャツ、子ども制作ポスター、記念になるグッズを作って販売する。

○第22回京都国際子ども映画祭について

第22回を迎えた今年は、2016年8月4日㊍～7日㊐までの4日間、5番組11回（特別上映1回を含む）の上映を京都文化博物館3階フィルムシアターで実施いたしました。併せて、別館ホールでも8月6日、7日の両日、過去の映画祭上映作品の上映や、映画の原理の動く絵のおもちゃ作りコーナー、簡単なアニメーション作りの体験コーナー、映画・アニメの原作になる絵本の展示と読書コーナー、国際子ども平和壁画プロジェクト・キッズゲルニカの展示を行いました。

　以下に、今回の特徴点を挙げておきます。

①今年も昨年に引き続き、作品交渉は自前で実施しました。長編4作品の内今年のベルリン映画祭のジェネレーション部門でクリスタルベア賞を受賞したインド映画「わな」をはじめ、昨年日本で公開された韓国映画「犬どろぼう完全計画」に日本の「なつやすみの巨匠」など、アジア映画が大勢を占めるという初のラインナップになりました。

②短編作品は、アニメーションとドラマに分けて途中休憩を入れて上映しました。この試みも、今回初めてでした。見て理解できる年齢としてようじ、小学3年生、小学5年生からという3段階でチラシ表示しました。

③助成金は、日本芸術文化振興基金（972000円）、みやこユニバーサル上映補助金（15万円）の2か所からにとどまりました。その他に予定していた大口が取れず、財政的には厳しいものがありました。

④実行委員会は4月から始まり、7月の上映前まで4回実施いたしました。実行委員の数も少なく、実務連絡に終始することが多く、精彩に欠けていたと思います。子どもスタッフの参加が、ほとんどなかったことも課題として残りました。

⑤チラシの作成は人手不足と、短編作品の決定と資料の取り寄せがずれ込み7月10日に完成しました。小学校で配布ができるのですが、その人手も足りず夏休みに入り時間切れとなりました。宣伝期間が1か月足らずということで動員は延べ799名と昨年を下回りました。大人と子どもの比率も大人の方が多いという状況に変化はありませんでした。初日に、うたの・ひこばえ児童館から50名ほどの団体鑑賞がありました。

⑥子ども審査員は6名でした。立ち上がりの応募が早く、今年は期待できるかなと思っていましたが、子どものクラブの都合や、夏休み行事の都合などでキャンセルもあり最終6名となりました。4日間通しで参加できた審査員は4名で、1日あるいは午後は欠席など子ども審査員のありようについて考えさせられる結果となりました。

⑦ゲストは多彩でした。「なつやすみの巨匠」の中島良監督、「犬どろぼう完全計画」のキム・ソンホ監督、「わな」のナイール監督と主演女優の奥様、「ネリーの冒険」の音楽監督・ヘンケさん、短編作品「わたしの宝物」の宮平監督に参加していただきました。

⑧グランプリ作品は、長編部門：「なつやすみの巨匠」、短編アニメ部門：「ネコとイヌ」、短編ドラマ部門：「わたしの宝物」、でした。

○声優養成講座

会場：中京青少年活動センター

共催：（公財）京都市ユースサービス協会

開催日：第1回　2016年6月14日㊏

第2回　2016年6月18日㊏

　　　　第3回　2016年7月2日㊏

第4回　2016年7月16日㊏

　　　　第5回　2016年7月30日㊏

第6回　2016年8月

○機関誌の発行について

キンダー通信を理事長の尽力により２号発行しました。

№52　映画祭前

№53　映画祭報告